

### CONTENTS 目次

- 2 新年のご挨拶
- 4 特集 クロストーク 市長×二十歳
- 6 やいたのみなさんコンニチハ・ヤイタゴハン ほか
- 8 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 10 今月のニュース&トピックス
- 16 はつらつ通信
- 17 市からのお知らせ
- 27 #yaitagram・クイズ&アンケート
- 28 ゆかりびと・編集後記

### COVER 表紙の写真



表紙の写真は、木幡神社でお参りをする市内在住の加藤さん(右)と友人の松本さん(左)。定期的に着物デートをしているというお二人に、初詣をイメージした写真撮影にご協力いただきました。皆さんにとって良い一年になりますように。

加藤聖陽という雅号を持つ加藤さんは、毎週月・水曜日に、書道教室を開室しています。未就学児～大人まで、学べる教室はこちらからご覧ください。



### POPULATION 人口 (12月1日現在)

30,586人 (△16)	出生	8人
男 15,220人 (△13)	死亡	42人
女 15,366人 (△3)	転入	72人
13,370世帯 (4)	転出	54人

( )内は11月1日との比較 ※住民基本台帳をもとに算出  
△は減

## 矢板市議会議長 佐貫 董

ど、広範かつ、きめ細やかな行政サービスが求められております。

そのため、一つひとつの問題に向き合うため、これまで以上に市民の皆さまの多種多様な意見に耳を傾け、市政に適切に反映させ、市民満足度の高い市政運営が実現できますよう、議会が一丸となって機能強化に努めます。その上で、議員それぞれが研鑽に努め資質の向上を図り熟議を進めてまいります。

市民の皆さまのご意見、お力添えをいただきながら、議会運営に努めてまいります。今後とも、市議会に対し、賜りますようお願い申し上げます。

皆さまにとりまして、本年が幸せで実り多い、大いなる飛躍の年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

### むすびに

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます



## 矢板市長 齋藤 淳一郎

「昨年8月から建設工事を開始した、「未来体育館」こと矢板市文化スポーツ複合施設建設工事は、昨年末に本体工事が完了しました。本市がこれまで地方創生の取り組みの一環として推進してきた、スポーツと観光を結びつけたスポーツツーリズムの拠点施設としてのみならず、市民の皆さまの健康づくり、生きがいづくりの拠点、さらには防災拠点としての役割も、大いに期待されています。

また、城の湯温泉センター宿泊施設も、本年4月の開業を目指しています。文化スポーツ複合施設との連携による滞在型スポーツツーリズムを展開することで、交流人口の増加と市内経済の活性化を図ってまいります。

このほか、昨年3月末に閉校と

### むすびに

本年もこのように市民の皆さまとともに、ふるさと矢板の未来を切り拓いてまいります。皆さまにとりまして本年が幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

なつた旧泉中学校の敷地と建物を活用し、泉地区の公共施設を集約した複合施設、「泉きずな館」も4月に完成します。地方創生が掲げる「小さな拠点」構想の中核施設として、本市では初めてとなる常設型サロンを開設するなどして、「泉モデル」というべき高齢者福祉施策を推進し、その成功例を市内はもとより、市外、県外にも発信してまいります。

昨年は、こどもに関する取り組みを社会のまんなかに据える「こどもまんなか社会」実現のために、こども家庭庁が創設されました。そこで本市はこの趣旨に賛同し、昨年6月、県内自治体で初めて、「こどもまんなか応援サポーター」を宣言しました。自助(共助)・互助・公助のベクトルを軸とする「Yaitaこどもまんなかプロジェクト」の推進により、こどもまんなかの矢板市づくりにも努めてまいります。



皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政ならびに市議会の活動に力強いご支援により、円滑な議会運営ができましたことに心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

### 昨年を振り返って

昨年は、4年に1度の市議會議員選挙を経て、令和5年度新体制で議会運営がスタートいたしました。また、令和5年度は栃木県内14市から構成される栃木県市議會議長会の会長として、各市議会の皆さまと連携を図り、共通の課題解決に取り組んでまいりました。

### 新年を迎えるにあたり

市政の運営にあたりましては、今後ますます深刻化していくことが予想される、少子高齢化、人口減少などの課題を抱えながら、社会資本の整備、教育や福祉のさらなる充実な

### 昨年5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、数年前にさまざまなイベントが再開されるなど、コロナ禍以前の様相を取り戻しつつあります。しかし、感染症法上の位置付けが変わっても、新型コロナウイルス感染症やその影響がなくなるわけではありません。また、原材料価格の高騰による物価高騰など、依然として幅広い分野に経済的な不安をもたらしております。

## 令和6年元旦

明けましておめでとうございませう。皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

足掛け4年のコロナ禍が収束して初めてとなる新年を迎える本年は、物価高騰対策を推進するとともに、各種の社会資本整備に一層注力し、矢板市における地方創生、「矢板創生」を実現してまいります。

「昨年8月から建設工事を開始した、「未来体育館」こと矢板市文化スポーツ複合施設建設工事は、昨年末に本体工事が完了しました。本市がこれまで地方創生の取り組みの一環として推進してきた、スポーツと観光を結びつけたスポーツツーリズムの拠点施設としてのみならず、市民の皆さまの健康づくり、生きがいづくりの拠点、さらには防災拠点としての役割も、大いに期待されています。

また、城の湯温泉センター宿泊施設も、本年4月の開業を目指しています。文化スポーツ複合施設との連携による滞在型スポーツツーリズムを展開することで、交流人口の増加と市内経済の活性化を図ってまいります。